

社会福祉法人 十字の園

ぶどうの木

(ヨハネ福音書 15章)

発行: (福) 十字の園法人事務局
理事長 平井 章

住所: 〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11
tel 053-414-1400
fax 053-437-1352



新しいデイサービスを始めました

『趣味を振り返って』 伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 施設長 青木克文

これまでの趣味を振り返ってみると、小学生のときの切手収集から始まり、洋楽の影響でギター、学生時代のオーディオ、社会人となってクルマ、カメラ、オートバイ、万年筆等変遷を重ねてきました。その時の流行で情報が多く流布する中で影響を受けていたのかもしれませんが。

50代に入って再びオートバイに乗りたくなり大型免許を取得し、多いときには3台所有していました。若いときに乗っており、一時降りていたがまた乗り始める「リターン・ライダー」が増えているそうです。私も当時のバイク・ブームの申し子です。いつまで乗れるかわかりませんが、これからも風になります。もちろん安全運転で！！



御言葉に聴き、イエス・キリストに倣う福祉の実践

理事長 平井 章

創立30周年記念誌の中で西村一之先生（牧師・理事）は、「法人運営とキリスト教主義の意味と目的」と題して、「創立30周年記念は『初めの愛』を想起し、十字の園が将来に向かって存在する意味は『何』かを問うことである。」と記しています。

社会的な立場では、十字の園の存在する意味は、定款第1条（目的）「この社会福祉法人は、キリスト教の精神に立って、多様な福祉サービス…」を提供することです。精神的な立場では、ハニ・ウォルフ姉妹の「老人ホームは神様の力の大ききでやりたい。私働く人、みんなキリストの十字架のもとでだけ、一つになって働く団体になりたい。」という実践です。

聖隷の長谷川保たちは、『イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。』（ヨハネの手紙Ⅰ 3:16）に触発されて、結核の人との出会いから事業が始まりました。聖書を読み、神を礼拝し、御言葉に聴き、イエスの愛を知った者（クリスチャン）たちの「隣人愛＝自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」の実践となりました。

「キリスト教の精神に立って」を法人全体でどのように理解したらよいのか。十字の園の職員のうちクリスチャンの数は全体の6.5%の40人、93.5%のノンクリスチャンと協働してキリスト教社会事業

を実践していくことになります。「犠牲、贖罪の愛」はキリスト教信仰の根幹を成していますが、その文言での説明は共通理解になりません。しかし、内容をかみ砕いて説明するといつの間にか「ヒューマンイズム」として受け理解してしまいます。一般の福祉とキリスト教福祉との違いがここに表面化します。西村先生は「ヒューマンイズムには限界がある。愛された分しか愛せない。この限界を越えるためにキリストはこの犠牲を進んで負いつつ生き、死なれた。この犠牲を贖罪の愛と呼ぶ。」と語っています。

聖書を共通言語として受け、法人の目的、キリスト教社会福祉を実践するために、聖書からのメッセージを理解する必要が起きます。聖書を開き、御言葉に聴く、主に祈る施設の礼拝は、十字の園の職員にとって意味があり、単なる行事ではありません。西村先生は「キリスト教精神に立つ」意味と目的を次のようにまとめられました。

1. 生活、業務、行事の中心に「礼拝」がある。生活共同体すべての主体（＝主人）はキリストであることを象徴している。
2. その基本精神のもとに二つの人間集団が対等で成立ち、生活共同体を構成する。
 - ①「入居者・利用者」は、日々の生活の主体（＝主人）である。
 - ②仕事や業務の面の主体は職員である。職員は自己訓練を含めて、老人問題についてたえず学習に努めなければならない。
 - ③この二つの集団が生活し働き易くあるための環境や条件の充実、改善に責任をもつ主体は、理事以下の事務職員である。理事会の構成員は半数以上がクリスチャンであることに留意しなければならない。限度を割って少くなるときは、存立の意味が失われていくことになる。

御言葉を聴き続けていく中に理想とする福祉の実践者であるイエス・キリストに出会います。イエスに倣う人が現れます。



「監事監査に携わって」

十字の園 監事 遠藤 忠

その1 監事の役割

「監事」の役割は、企業の「監査役」と同じようなものと考え十字の園の監事監査に携わってきましたが、趣旨は同じでも実施内容には、多くの違いがあるのに驚かされます。

企業では、監査全般を束ねるのは監査役ですが、事業所や子会社が多くありグループ全体の監査を実施しなければならない為、役割分担がある程度細分化されています。まず、会計監査は専門家である公認会計士に委ねられ、その結果の報告を監査役が受けることになっています。

次に、業務監査は「監査役」と「内部監査部門」が分担しています。監査役は取締役会と取締役及び経営者の業務の執行状況を監査し、内部監査部門は業務の運営管理状況を監査し経営者と監査役にその結果を報告することになっています。また、監査役には、監査の範囲が取締役会及び取締役の業務執行に留まる「社外監査役」と企業内に常駐し内部決定機関まで入り込んで監査する「常勤監査役」がいます。

法人の監事は、立場上は企業の社外監査役と同等ですが、役割は理事の業務執行状況の監査（業務監査）と財産の状況の監査（会計監査）であり、業務監査の対象範囲は、業務が適正に行われているかどうかという適法性だけでなく、法人の事業目的に照らして、業務の進め方、財産の管理、利用、処分の仕方などの妥当性まで及ぶものとされ、かなり広範囲を受け持ち、責任も重いものになっています。法人においても内部監査部門が充実されることになっていますので、少しでも監事の業務が軽減されることを期待しています。



「『あがらいん』支援スタッフ募集のお願い」

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 施設長 青木克文

これまで法人として避難所や施設、物資運搬等に支援職員を派遣してきましたが、今回も日本キリスト教社会事業同盟の経費助成制度を活用し、全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）が昨年12月から受託運営している宮城県石巻市内の大規模仮設住宅街にある「あがらいん」という地域交流拠点に派遣する職員を募っています。

「あがらいん」は震災後の生活環境の変化から在宅生活が困難になった方を受け入れ、次の生活場所への準備や在宅生活継続の支援を行っています。福祉制度や介護保険によらず復興予算で運営されており、地域のサロンや食堂、デイサービスとグループホーム機能のほか惣菜の移動販売にも取り組んでいます。現スタッフでは手が足りません。

利用者は自立度の高い方々ですが、認知症の方の見守りや誘導、ゆったりと寄り添った日常生活のお世話や調理・洗濯・清掃、さらに移動販売にも関わります。管理者の橋本さんは、「来て下さる方には、利用者だけでなく仮設住宅の住民や地域と関わりを持ってほしい。人生観や価値観が変わるだろう体験を通して本人や派遣した施設にお返しをしたい」と話され、大いに期待されています。



「2012年度 十字の園大会報告」

今回で第17回となる十字の園大会が10月25日（木）、26日（金）に御殿場の地で開催されました。主題『創立の精神(こころ)から新たな福祉に挑戦(チャレンジ)』～既に据えられている土台の上に～のもと、今年度のテーマは、昨年度の「自由」に引き続き、法人理念にある「希望」をキーワードとした「『生きる希望を創る』自立支援ケア」で行われました。基調講演に市川一宏氏（ルーテル学院大学学長・教授）をお迎えしご講演を



いただき、続いて平井理事長より「自立支援ケア」について、今までの取組みの紹介や思い、これからについて職員に向けたメッセージが語られました。また、御殿場十字の園が参加している介護力向上講習会に関する研修伝達や各施設からの実践発表が行われました。宿泊はロッジを借り、3～5人ごとに過ごし、交流の時間を持ち、密度の濃い大会となりました。

基調講演 テーマ「社会福祉の動向とキリスト教社会福祉への期待」

ルーテル学院大学学長・教授 市川 一宏 氏

最近の社会問題として「孤立」や「自殺」、また、子どもの視点から見ると大切な親子関係が見えないことや子どもの貧困などがあります。本来は、子どもの誕生を祝い「おめでとう」と言い、高齢者の方も「ありがとう」と言えること。「おめでとう」に始まり、「ありがとう」で終わる一人ひとりの人生こそ目指す社会です。



社会福祉の変化として、力を活用した自立支援が大切です。福祉はその人の能力を奪っていないか（廃用性）。障害は一部で、それ以外は能力です。障害の部分には援助、能力には「活用」することが自立支援です。職員は、K K D（K感情、K経験、D度胸）の態度では好ましくありません。難しいなら、その根拠を皆で探しチャレンジし、議論は抽象的ではなく具体的にすることが重要です。地域についても、当事者を含め地域資源を「活用」することが大事です。居場所がないと集まれないことから、ちょっとしたサロンなど縁側活動が増えています。自助、共助、公助とありますが、共助がなければ地域福祉ではありません。

糸賀一雄氏の言葉と実践の出会いが、私の人生の方向を大きく変えました。「この子らに世の光を」ではなく、「この子らを世の光に」というメッセージです。そうしたいつも原点、使命に立ち返ることが必要です。底知れぬ能力を理解できないということは、私たちに誤りがあるということです。

「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」という法人理念をヨコ軸に置き、その中心にタテ軸のキリストの愛を置く。タテ軸とヨコ軸が重なったところが、キリスト教社会福祉の実践です。

短い限られた時間の中で、大変示唆に富むお話を分かりやすくしていただき、また、最後に、なかなかできなくても、「始められる事から、始めよう」と0か1かではない、0.01%でもあればチャレンジすべきと、励ましをいただきました。

課題講演 「『自立支援ケア』過去、現在、そしてこれからへのメッセージ」 理事長 平井 章

法人のパンフレットの中に、1964年作成の施設要覧からの「(趣旨) …私たちの目標とするホームは日ごとに生き生き生活する所であって、生存するだけではあってはいけません。」を引用して掲載されています。今年度の十字の園大会のテーマ「自立支援ケア」について理事長に相談したところ、「自立支援ケアはすでに30年前に伊豆高原十字の園で実践していた」と話されました。そこで理事長に、その実践を含め「『自立支援ケア』過去、現在、そしてこれから」へのメッセージをお願いしました。



自立支援ケアの「過去」について、伊豆高原創設の頃、職員全体で「自立支援」に取り組んだことを鈴木生二氏の記された「夕光誌1982年5月」、文集「夕暮れになっても光がある1987年10月」から振り返り、お話されました。トイレで用をたすことは常識、おむつを使うようになると、急に認知症になる。「正気では『屈辱』に耐えられないから」、おむつ使用で入園された方でもトイレ介助し、おむつが濡れた瞬間に「コール・サイン」によりその回数を捉える「ママ・コール」なども使用しながら、おむつはずしの実践が30年ほど前から行っていたことが紹介されました。その他、「居室外での寝間着での歩行は許されません」から、起床時に普段着に着替えることや、見る・話す・聞くことがまったくできない三重苦の方の受け入れをして取り組んだ事例、選択できる食事としての「セルフ・ランチ」などが紹介されました。

「現在」について、職員宿舎に住みながら家族のように利用者・職員と過ごされたこと。ケアハウス・アドナイ館の施設長の際の想いや経験、浜松十字の園の施設長になってからのユニットケアへの取り組みやその後の展開などについてお話されました。

「これから」については、自立支援ケアにより特養を退居して地域で新たな暮らしを始める道筋を創造することこそ「新たな福祉の挑戦」となるでしょう。武田和典氏は「ユニットケアはあくまでも方法で、その次は『地域』だ」と言う。地域移行への可能性について期待を込めて述べられました。

十字の園大会2012プログラム

I 施設発表

施設発表番号・施設	発表者	概 要
施設発表1 (御殿場)	土屋 喜 池谷洋子	「自立支援介護」への取り組み
施設発表2 (浜松)	川合佑哉	笑顔と共に生きるために…
施設発表3 (伊豆高原)	岩本佑太	介護を生活に変えよう ～私たち、介護職員辞めました～
施設発表4 (アドナイ館)	岩ヶ谷佳那	2年半を振り返り、今後の課題について考える
施設発表5 (松崎)	山本幸代 杉山 歩 島倉とよみ	経管栄養から経口摂取へ 自分の家に帰りたい 食事は旦那様と一緒に
施設発表6 (平和の杜)	山崎ひろみ	透析と共に自分らしく生きていく
施設発表7 (第2アドナイ館)	鈴木淳司	今日の私は何したい? ～テレビ介護をなくそう～ 「職員主導」から「入居者中心」へ

II 大会日程

第1日目【10月25日(木)】		第2日目【10月26日(金)】	
13:00	開会礼拝	09:00	施設発表2 (浜松)
13:20	理事長挨拶	09:25	施設発表3 (伊豆高原)
13:30	基調講演 (市川一宏先生)	09:50	施設発表4 (アドナイ館)
15:15	課題講演 (平井章理事長)	10:15	施設発表5 (松崎)
16:10	実践報告 (研修伝達)	10:50	施設発表6 (平和の杜)
16:40	施設発表1 (御殿場)	11:15	施設発表7 (第2アドナイ館)
17:00	終了	11:40	講評・総評
18:00	夕食	12:00	閉会礼拝
		12:30	解散

『ふじざくら浴室改修』

介護支援センターふじざくら 高橋直輝



改修前浴室

何年も前から改善・改修依頼申請をしていた浴室改修が10月初旬に実施され、約2週間の工事を経て生まれ変わりました。

現在の御殿場十字の園本館が改築されたのが1999年。その時このふじざくらも誕生しました。建築当初から使用して来た浴槽は、数人の方が湯船につかることが出来ることをコンセプトに大風呂が設置されたのですが、そのままでは十分に目が届かずご利用くださる方々に絶えず危険が伴う可能性がありました。私達としては十分な安全配慮を最優先に心地よく過ごしていただくことを第一に考えなければなりませんので手摺を取り付ける、同時に入浴される人数を減らす等、大風呂であるにもかかわらずゆったりとはかけ離れた状況になっていたことは否めません。

基本に立ち返り『安全』『安心』『心地良く』そして私達にとっても配慮が行き届くということを中心に、大浴槽を取り払い二つの個人浴槽を設置しました。工事の際、騒音や振動から避難していただくことも多くご迷惑をお掛けしましたが、皆さんに満足していただけると自信を持って言えるものとなったことをご報告申し上げます。



改修後浴室

『楽しみたい!』～皆さんの声に耳を傾けて～

伊豆高原十字の園 看護室 萩坂麻美

伊豆高原十字の園では、入居者の皆さんに少しでも喜んで欲しい、楽しんで欲しいという想いが形になって今年から始めたサークル活動があります。その名もレクリエーションサークル『たのしみたい』です。

記念すべき第1回は「居酒屋」を開催、2回目「買い物ツアー」、3回目「ドッグセラピー」、4回目「農園レクリエーション」、5回目「のど自慢音楽会」、6回目は「美容セラピー」でした。活動していると、皆さんの笑顔がいつも側にある事を感じられ喜びに満ち、企画の案は尽きることはありません。更に、活動中は各部署の職員が「楽しい事やってるね!」と自然に手を貸してくれるので、感謝、感謝です。

今後も『たのしみたい!』という1人1人の声に耳を傾け、各自の体調に配慮し、支援する私達も楽しみながら!活動を続けていきます。次回の企画に乞うご期待!なんちゃって。



ドッグセラピー



農園レクリエーションでオクラを植えました

【懐かしの竹とんぼ作り】

松崎十字の園 デイサービス 吉田 勇

今年10月利用者の御子息を講師に迎え、竹とんぼ作りを行いました。ゲーム機などが無かった頃、大家族の中では、手作りの玩具が当たり前を受け継がれていました。昔ながらの手作りの味わい、温かみを、今回、竹を通して思い出して頂きたいと考えたのがきっかけでした。

竹とんぼ作りが始まると、子供の頃に戻ったような瞳で、皆様の表情も輝いてきました。「生まれて初めて作るのよ。」とはしゃぐ女性もおられました。思い思いに色を塗って頂きオリジナルの作品が、次々と完成しました。

当日、秋晴れの空へ自作の竹とんぼが舞い上がると、童心に帰り無邪気な笑顔で歓声が沸きました。

会話も弾み、竹の種類、竹の籠、小刀を日常的に使っていたこと、筍料理、その裏技など、今まで何う事の出来なかった話題に花が咲きました。

この企画が成功したのも皆様の協力の賜物です。ありがとうございました。



【まったり～のんびり～くつろぎの家】

伊東市立養護老人ホーム平和の杜 山田敬紀

夏の暑さが落ち着いた10月、新しいデイサービス事業がはじまりました。平和の杜の姉妹施設ということで一碧の杜「くつろぎの家」という名称がつけられました。

ペンションを改築してリニューアルされた施設は平和の杜から車で約5～6分ほどの距離にあります。1階に食堂やリビングといった生活スペースがあり、2階には合計8室の個室を用意してあります。2階の活用は準備段階ですが、近い将来緊急ショートを受け入れなどに利用する予定です。

基本的にはデイサービスですが、在宅サービスでは提供が難しいことや制度外のサービスを展開する施設として、また、ひとりひとりのニーズに合わせたサービスを提供する場として発展させたいと考えております。

現在8名のご利用者がいますが、それぞれ思い思いの活動を楽しみながら、すぐ隣にいるスタッフや仲間と楽しい時間を過ごされています。家庭的な雰囲気に普段と違う表情を見せるご利用者が多く、環境がいかに大切かあらためて知ることとなりました。

現在食事に関しては、平和の杜で作られた食事を運んで提供していますが、11月からは職員が「くつろぎの家」で料理をして提供する予定です。また、鍋料理や手巻き寿司などといった利用者さんが自分たちで食事を作って楽しむ計画もあります。

デイサービスが開始されて約1ヶ月ほどですが、徐々にご近所のかたの訪問者も増えており、住宅街のコミュニティスペースとしての場を提供しつつあります。逆に地域住民から行事へのお誘いや、花の提供があり、地域に根差した施設として認知されつつあります。

近くにお出かけの際はぜひお立ち寄りください。スタッフ一同最高の笑顔でお出迎えいたします。

アドナイ館改修工事について支援のお願い ※※※※※※

アドナイ館は、開設20年目を期に、外壁・屋上防水工事他の大規模改修工事を行います。工期は11月中旬から4ヶ月間を予定しています。3月中には、新しく装ったアドナイ館が、お目見えします。ご支援を賜りますよう宜しくお願い致します。
施設長 上野貢一



設計監理・工事金額 60,338,500円

(銀行振込)

静岡銀行 細江支店(店番号352)

(郵便振替)

普通口座 244399

口座番号 00890-9-125741

口座名義 アドナイ館

口座名義 社会福祉法人十字の園 アドナイ館

専用の郵便振替用紙をご希望の方は、アドナイ館事務所にご連絡下さい。お送りします。

アドナイ館 電話 053-439-1200 FAX 053-439-1211 担当:三輪

2012
平成24年度

永年勤続者表彰名簿 (31名)

ありがとうございます。これからも
元気で良い働きができますように!

勤続年数	氏名	施設名	就職年月日	勤続年数	氏名	施設名	就職年月日
35年	杉村きみよ	浜松十字の園	1975年7月28日	10年	鈴木 清彦	松崎十字の園	2002年4月1日
30年	鈴木 啓之	伊東市立養護老人ホーム	1982年4月1日	10年	石田 良	松崎十字の園	2002年4月1日
20年	河出 雅代	浜松十字の園	1990年5月1日	10年	関 弘美	松崎十字の園	2002年4月1日
20年	谷田貝泰子	御殿場十字の園	1991年5月1日	10年	土屋 正子	松崎十字の園	2002年4月1日
20年	大谷 光宏	アドナイ館	1992年3月4日	10年	平川 誠美	松崎十字の園	2002年4月1日
20年	澤田美恵子	御殿場十字の園	1992年4月1日	10年	藤井 昭一	松崎十字の園	2002年4月1日
20年	山田 厚子	伊豆高原十字の園	1992年4月1日	10年	松本 耕	御殿場十字の園	2001年6月1日
15年	近藤 礼子	伊豆高原十字の園	1997年4月1日	10年	岩田 朋宏	御殿場十字の園	2002年3月1日
10年	川尻 寿	伊東市立養護老人ホーム	2002年4月1日	10年	千田 晶子	御殿場十字の園	2002年4月1日
10年	加藤 義孝	浜松十字の園	2001年5月1日	10年	杉崎 由宗	御殿場十字の園	2002年4月1日
10年	古橋美恵子	浜松十字の園	2001年12月1日	10年	武藤 繁生	御殿場十字の園	2002年4月1日
10年	栗田 望	浜松十字の園	2002年4月1日	10年	畝 永子	伊豆高原十字の園	2001年12月24日
10年	豊田真由美	浜松十字の園	2002年4月1日	10年	松崎 和博	伊豆高原十字の園	2001年7月1日
10年	山本 貴一	松崎十字の園	2001年9月1日	10年	三浦 伯子	伊豆高原十字の園	2002年2月5日
10年	阿部美代子	松崎十字の園	2002年4月1日	10年	斉藤佐智子	伊豆高原十字の園	2001年12月17日
10年	島倉とよみ	松崎十字の園	2002年4月1日				

復興支援募金継続中 ご協力を!!
皆様の温かい御支援をお待ちしております!!

〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11

社会福祉法人 十字の園

理事長 平井 章

銀行振替 静岡銀行細江支店 普通 0015345

あとがき 昨年一眼レフカメラを購入してから約1年が経ちました。去年の紅葉はカメラの使い方すらおぼつかないなかで撮影しましたが、今年は余裕をもってフレームの中の紅葉を楽しめそうです。感じた景色とカメラに収めた写真がピタリと合うことは稀ですが、そこがやりがいでもあります。 山田